

E分科会 テーマ③「財務分析」

運営委員：秋 元 雅 則
井 山 信 康

今回はE分科会の参加者は35名で2班に各々17名・18名の配分となりました。人数が少ないとのことで、自己紹介の時間を15分ほど取り、勤務校の特徴や参加の目的などを発言して貰い、各参加者が他校の情報を知る機会としました。又、我々運営委員は研修会参加者がどのような意識を持って研修会に参加しているかを受取る場ともしました。参加者は各短期大学の現状を深く理解しており、前向きな発言が多くありました。

内容については①平成27年度の計算書類を用い昨年度と同様の財務分析を行いました。日本私立学校振興・共済事業団の『今日の私学財政』のデータとの比較を各短期大学において行い自校のポジションの把握を行いました。事業活動収支の「関係比率の平均」による分析は14項目の分析を行いました。最初は時間がかかる参加者もブロック別の表に移るころは比率の意味を質問してくるなど、積極的な姿勢が伺えました。続けて貸借対照表の「関係比率の平均」による分析を行いました。貸借対照表関係は21項目と多くの比率を計算しましたので、個人差が出て、時間内に終わらない参加者もいたようです。特に若干名は比率の科目がわからない状況で、悪戦苦闘状態でした。次年度は演習の量は減らす方がいいのではないかと思います。

続けて③日本私立学校振興・共済事業団の提供した指標である『定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分（法人全体）』を説明しました。昨年同様現員700名ほどの仮想法人を設定し、新会計基準に対応した内容で進めました。財務分析とは異なり、法人全体での経営状況の把握を行うにはよい指標ですので、参加者が自校でのデータを実際に入力してみることを期待しています。教育研究活動の収支が大切な指標であることと、法人の収支と運用資産の確保が如何に大事かを理解して貰えたと思います。

検討事項としては、前述しました科目による比率分析の演習の量の削減、及び一人あたりの教職員数など、別の観点からの考察ができる分析も考えて行きたいと思います。

最後に研修会の参加者は人数が減少しましたが、自己紹介を加えたことにより、身近な短期大学同志といった雰囲気が進められたことが良かったと思います。

以上